

第 12 回ふれあいトーク（協働） 会議記録

- 1、日 時 平成 23 年 9 月 1 日（木） 午後 5 時 30 分から 7 時 15 分
- 2、場 所 男女平等推進センター（ウィング・ウィング高岡）
- 3、出席者 ・ E ネット（高岡市男女平等推進センター登録活動団体ネットワーク）20 人
各団体名
N プロジェクトひと・みち・まち、200 年まちづくりの会、アプローチ、
トークサロンエンジェルの会、カーテンコール、憲法 9 条ファンクラブ
@高岡、シャキット富山 35、定塚女性ネット、地域女性ネット高岡、富
山県男女共同参画推進員高岡連絡会、なの会、ぴ～すフィルムネット、
病院ボランティアすずらん、ベアテさんの会、女性の地位向上をめざす
高岡民商婦人部、まちの福祉しらべ隊、みらい高岡、楽学電腦座
・ アドバイザー
財団法人新潟県女性財団 理事長
・ 高岡市
市長、男女平等推進センター所長、男女平等・共同参画課長、
市民協働課長、広報統計課長
- 4、会議次第
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 市の出席者紹介、会議の趣旨説明
 - (3) 参加者紹介及び E ネットの活動紹介
 - (4) 市民協働プラットフォームについて説明
 - (5) 意見交換
 - ・ 今後の取り組みや課題・提案等

参加者紹介

E ネットの代表より参加者の紹介、各団体の活動について紹介していただいた。

市民協働課長より市民協働プラットフォームについて説明

意見交換

まちの福祉しらべ隊

- ・ 市の補助を受けて事業を行う場合いろいろな制限があって都合が悪い。「E フェスタ 2011」のイベントで被爆ピアノの演奏者の池邊幸恵さんを招いて、演奏会を開く企画をしたが、入場料を取ることは認められなかった。やむを得ず協力金を募る形で

行うことになったが、人を呼ぶにはお金が必要である。活動内容により要件を緩和し、柔軟に補助金を使えるよう打開策を求めている。もっと補助金を自由に使えるようにできないか。

憲法 9 条ファンクラブ@高岡

- 今の意見に関しては E フェスタをやってきた中でも苦労していることである。補助金の使用基準に入場料を取ることにについて一定の基準を設けてはどうか。補助金を有効に使う方法について市側ともっと話し合いが出来たらよいのではと思う。

男女平等推進センター所長

- 市の補助金は、市民の税金から支出する性質上、有効に事業に使われることが前提である。事業を行った際、運用について窮屈に思われたのかもしれない。今回の演奏会の件に関しても話し合いを行って協力金という形で運用につなげることが出来たと思っていたが、十分に理解していただけなかった部分に関しては、さらに話し合いを続けていきたいと考えている。

市長

- E フェスタの事業目的は個々の団体事業の成果の発表の場をつくることであつたと思う。補助金については、決して営利目的ではないにしろ、入場料を取る行為が活動補助事業に対する支給目的から考えると難しい。いろいろな活動分野が一同に会しているので、情報の共有をしていただき、有効に利用していただきたい。また、E フェスタの運営方法も含め、男女平等推進センターとお互い時間をかけて話し合いを行ってほしい。
- 市では、皆さんの情報やノウハウについてお互いに共有していただくため、市民協働プラットフォームという土俵の整備を行っているところである。相談窓口や中継ぎ役としてご利用していただきたい。もちろん民と官だけでなく民と民で直接やり取りをしていただいても構わないよう制約はつくらないので、高岡市内で活動している団体の皆さんにはできるだけ情報をオープンにさせていただき、お互いに情報交換の場としていただきたい。

ぴ〜すフィルムネット

- 去年、三井マリ子さん（評論家）をお呼びし、お話を伺った際に、女性の参画を進める上でクオータ制が一番武器になったことを伺い、勉強会を行ってきている。今は市民レベルでクオータ制について勉強しているが、行政側でも検討や勉強会が始まっていると思うので相互に勉強会を開くことができないか。

市長

- クオータ制については、政治的な判断が必要な部分もあり、法令で義務付けるのか、自主的なもので良いのかを国の方針も参考に考えなければならない。高岡市に関しては、審議会のメンバーについて男女比の割合は改善してきていると思われる。ただし、中には資格を必要とするなどの制約があり、男女比に偏りが生ずるケースもある。高岡市の職員の中で管理職に男女比同数が可能であるかと考えると、能力ある職員の人材プールの形成が必要になってくる。これからは能力のある職員がふさわしい仕事につけるようには努力していく。新規採用の一般事務職に関しては、男女比はほぼ同数となっており、男女平等の考え方は必要であると理解している。
- 市民活動との情報共有については、ディスカッション等を通じ、男女平等推進センターを窓口にして相談していただければ、各部署にお繋ぎし、情報交換できるのではないかと考えている。

ベアテさんの会

- 高岡市の協働は他の市の人からもすばらしいといわれている。
- 現在、職員の登用もそうだが、市民もまだまだ協働について研修等、勉強が必要だと感じる。富山県の職員研修所から講座のファシリテーターとして依頼され参加したとき、各市町村の職員を対象に協働、市民活動、NPOを知るという研修が行われていた。高岡市職員研修にも市民活動と協働で研修の枠をつくることを検討してみてもどうか。
- 市民協働に関しては、協働アドバイザーの青海さんに相談出来るようになったのだが、まずは、協働に対する考え方をお聞きしたいので青海さんの講演会を開いてほしい。

市民協働課長

- 青海さんには過去に協働について講演会をお願いしたことがある。青海さんのスケジュールの都合がつけば実施できると思う

市長

- 青海さんの講師の件についてはスケジュールの関係もあるが、皆さんのスケジュールを考慮しながら調整し、市民協働課と相談してもらいたい。

楽学電腦座

- 高岡の地震防災マップは、高岡のホームページからなかなか探せない。また高岡市では、ホームページを良くするためアクセス数を増やすような管理をしているのか。ホームページをわかりやすく工夫しているのか疑問である。
- 地震防災マップに関しては、ホームページではPDFで掲載しているが、ドットが荒い。現在では詳細なマップが様々なサイトで提供されており、リンクしたり貼り付けたりできる。

市長

- ホームページに関しては、だいぶ改善されてきていると思うが、皆様が使いやすいようなホームページになっていないと感じておられるのは申し訳ないと思う。お気付きの点があったらぜひ担当課に教えていただきたい。今後、便利でわかりやすくするよう工夫していきたいと考えている。
- 防災マップのドット（解像度）の件については担当課に伝えたい。出来る限り元になるデータに沿ったものが提供出来るよう工夫をしていく。ホームページによる正確な情報提供方法についてもこれから考えていきたい。

楽学電腦座

- 民間の場合、商品提供する前にモニターとして幅広い年齢層の意見を収集している。ホームページに関しても年配者から子供たちに意見を聴く場があっても良いのではないかと思う。

市長

- ホームページのアクセス数の分析について確立したものがあれば紹介していただきたい。なければアンケート等を行って収集し、分析していくことも考えなければならない。

アプローチ

- 高岡市の協働事例集で、高岡市の各担当課の協働事業一覧を見ると 100 事業程挙がっていた。高岡市にはせっかく協働のルールがあり、コーディネーターもいることから、100 の事業について審査し見直してほしい。
- 情報公開制度を利用する際、申請しようとする担当課の方がわざわざ説明しに来られる。市民にとっては威圧的でハードルが高いと感じてしまうので事務的に受付をしてもらい、後で開示可能かどうかを教えてもらうだけでいい。
- 情報開示の際、会議録について依頼すると他の市町村は黒塗りで出されている。高岡市の場合は親切にわかりやすく要旨にまとめてあり、全て開示されている。ただし、要旨のみが全開示になっており、一語一句まで載せた会議録はあるのか。
- 今後、防災計画の中に放射能が出た場合にサイレン等を鳴らすことなどを盛り込めないか。また、そのような場合市民にどのような連絡方法を行うのが防災計画に盛り込んでほしい。

市長

- 情報公開制度について高岡市は出せるものはなるべく全て開示するようにしている。会議録については、会議の重要度によって要旨と全て一語一句記録として残している

ものを分けている。もし、要旨では足りないということであれば会議の重要性も考えて判断していきたい。通常、議会など本会議の会議録は一語一句載せているが、その他の委員会等については要旨によりお示ししている。

- 情報公開制度の利用時の職員の対応については、受け手側の負担にならないよう配慮していきたい。担当者等が受付時に対応する件については確認したい。
- 協働事業に関しては、定期的に見直すことは大切だと考えている。市民協働課でも確認しているが、再度リストアップしたものが本当に効果あるものなのか検証していく。
- 津波、地震警報のようにサイレンによるお知らせ方法が、そのまま放射能の警報に使えるかという、単に Yes / No でお知らせすることは混乱を招く恐れがある。いろんな情報が飛び交う中で正確な情報を早急に住民に伝えることは必要であり、メッセージの出し方、広く住民にお知らせするような方法については誤解を与えないよう研究してまいりたい。

憲法 9 条ファンクラブ@高岡

- 東日本大震災により、これまでの自然災害だけでなく新たに原子力発電所の事故が加わってきている。滋賀県や京都府では関西電力に対し、立地自治体並みの協定を結ぶ計画をしているというニュースを聞いている。高岡市においても志賀原発と協定をきちんと結ぶことにより情報の提供を受け、そのなかで避難の仕方がつくれると思う。高岡市だけでなく県、各市町村との関係もあると思うが協定を早く結んでほしいと思っている。

市長

- 原発に対しては、正確な情報の提供をいただくことは非常に大切だと思っている。放射能に関しては県境・市境は関係ないため避難方法・経路については、どういう情報を使っていけばよいか今後の防災計画等の見直しの中で考えていきたい。多くの人々が避難するための重要なことなのですぐに作成することはできないが、きっちりと正確な情報をつかんで、避難についても組み込んでいかなければならないと考えている。
- 高岡市と氷見市は県の防災計画見直しに伴う富山県防災会議の原子力災害対策部会の専門委員として所属している。協定については県の考えも聞き周辺市町村と連携をとりながら進めていきたい。

地域女性ネット高岡

- 財団法人新潟県女性財団事業予定「人材育成セミナー」のチラシを拝見して思ったが、富山県の女性財団の講座では、著名な講師が無料で講義を行っている。一方、新潟県の女性財団では参加者から受講料を徴収している。有料で行うことが、新しいエネルギーを取りこみ本物の人材育成につながるのではないかと。高岡市男女平等推進センターにおいても、有料にして著名な先生を呼ぶことで一人一人への啓発につながるのでは

はないかと考えている。そこで、有料にして有能な先生を迎えることについて、新潟県民の反応はどうか。

- 財団法人新潟県女性財団の人材育成セミナー「リスク・コミュニケーション」では、講義に防災カードゲームが含まれている。市民がもっと知識として知る必要性を理解してもらうために「男女平等・共同参画と市民活動」の講座でも取り入れてもらえばいいのではないかと。

財団法人新潟県女性財団 理事長

- 有料で出来るのは公設民営であることからの良さだと思う。公設公営の補助事業では公平さ等、税金を使っていることから苦労しているのではないかと。財団形式で行っているものと公営事業は少し運営方法が違うものだと思う。
- 人材育成の講義方法として、ファシリテーションやファシリテーション・グラフィックなどのコミュニケーション手法を使い、思いを相手に伝え相手のことも理解するスキルは、行政においても今後必要になる部門である。自治体の中でも職員研修で取り入れているところがあると聞いている。
- 受講料の金額について新潟県民の評判は、安いと好評である。ただし、3年ぐらい続けているとやはり参加者の顔ぶれはあまり変わらなくなる。
- 今回のフェスタでの防災カードについての講演目的は防災というよりも、一種の合意形成の新しい方法として男女共同参画社会づくりに応用編として利用できないかと思ってお願しているものである。
- 高岡市のEフェスタで入場料をとる意見がでていたが、補助金で行う事業は税金を使うことから難しいと思う。新潟市の男女平等事業のフォーラムは協賛事業というやりかたを行っている。協賛事業だと、会場等の使用や一部の補助のみ支援されるが、あとの運営については自主運営でしなければならない。自主運営であるため入場料に関しては取ることもやぶさかでないのではと思う。
- 男女共同参画を推進しているEネットの皆様にお伝えしたいことは、一つのテーマに様々な課が関わることが非常に多いということです。男女平等社会をつくるため、官と民・民と民の協働で行うときは、様々な方向や視点で施策の推進を図っていくことにより高岡市の輝ける住民がもっと増え、すばらしいまちづくりになると思う。
- ぜひ高岡市の職員研修の中で男女平等社会づくり、ジェンダーイコールの社会について勉強していただき、先に進む環境をつくっていただきたい。とくに管理職の皆さんには理解していただきたい。関係ないように思える土木に関しても、男女平等の意識が必要である。例えば道路を男性目線だけでつくろうとすると乳母車を引いたまますれ違っていくことができない歩道をつくってしまうことになってしまう。男女平等の社会づくりには全ての分野が関わっていることを理解していただき、皆様のお声を聞いて今後の高岡市の施策がさらにすばらしいものになるようお願いしたい。
- 行政のホームページは堅苦しいところがある。ぜひ職員の皆様の啓発していただいて

高岡市ホームページを明るく楽しいものにして全国発信していただければと思う。

- 今回、高岡市の皆さんにお会いしたことでさらに高岡が好きになった。新潟でも応援していきたいと思っている。

市長

- 男女平等という切り口は福祉・産業雇用・土木など様々な分野に関わっている。また災害のときには一番端的にいろいろな課題が表れてきてしまう。新潟県は新潟中越地震により災害における男女平等社会づくりに関わる問題が浮き彫りになり、男女に対する災害対応に関してはいち早く改善されている。
- 男女平等社会のまちづくりを考えていくことは大きなテーマであり、高岡市役所でも行政分野全部で皆さんと関わっていきたいと考えている。今回のご意見に関しても取り組むべきものは早速取り組んでいきたい。
- 男女平等の一つの切り口としてお集まりの皆さんが、互いにディスカッションされ、お互いの活動をお互いに触発されていることは心強いことであり、今後ともご意見等をいただきたいと考えている。